

10. エンダイブに発生した菌核病（情報）			
[要約] 本県で <i>Sclerotinia sclerotiorum</i> によるエンダイブ菌核病が初確認され、罹病株の菌核が伝染源となる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

## [背景・ねらい]

県南のエンダイブ産地で葉が褐変し、激しい場合には腐敗して枯死する症状が見られたので、その原因を究明し、防除対策上の資料とする。

## [成果の概要・特徴]

- 平成 15 年 11 月上旬に、エンダイブの葉や茎が暗緑色水浸状、後に褐色に軟化して萎れる症状が発生し、激しい株では、株中心部が腐敗して枯死した（図 1）株中心部や地際の罹病部に白色綿毛状の菌糸が密生した後、黒色の菌核が形成された。
- 11 月上旬に初発して急増した後、11 月下旬以降はやや停滞気味となり、定植の遅い作型で翌年 1 月上旬まで微発生が続いた。子のを盤はハウス間通路や発病後放置された株で、初発時の 11 月上旬から翌年 2 月上旬まで形成され、本症状の発生時期とほぼ一致していた（表 1）。
- 圃場周辺から採取した子のを盤及び罹病組織から菌核を形成する菌が分離された。両分離菌を有傷または無傷でエンダイブに接種すると、病徴が再現された。子のを盤及び子のを胞子の形態から、本菌を *Sclerotinia sclerotiorum* (Lib.) de Bary と同定した。

以上の結果から、本県で *Sclerotinia sclerotiorum* (Lib.) de Bary によるエンダイブ菌核病が初確認され、圃場周辺に放置された罹病株の菌核が伝染源となる。

## [成果の活用面・留意点]

- 菌核病菌は多犯性であるので、本病が発病する他作物でも罹病残渣の処分を徹底する。
- 現在、本病に対する登録農薬はないが、登録に向けて試験中である。

[具体的データ]



図1 エンダイブ菌核病の病徴と病原菌

表1 エンダイブ菌核病の発病推移（平成15年10月～平成16年2月、山陽町）

定植時期	発病株率 (%)											
	10/7	10/31	11/11	11/14	11/20	11/28	12/5	12/15	1/7	1/21	2/5	
8月6半旬	0											
9月4半旬	0	0	18.9									
9月5半旬	0	0	0	0.4	0.8	0	0.6	0				
10月1半旬	0	0	3.9	8.6	15.9	3.7						
10月3半旬	0	0	0	0	0	0	0	0				
10月4半旬		0	0	0	0	0	0.4	0	1.4			
10月6半旬		0	0	0	0	0	0	0.2	0	0		
11月3半旬					0	0	0	0	0	0	0	0
12月1半旬							0	0	0	0	0	0
12月3半旬								0	0	0	0	0
12月6半旬									0	0	0	0
1月2半旬										0	0	0
2月1半旬												0
	—	—	有	有	有	有	有	僅かに有	僅かに有	無	僅かに有	

[その他]

試験研究課題・事業名：病虫害・生育障害の診断と対策指導

予算区分：県単（現地緊急課題）

研究期間：平成15年度

関連情報等：